

長野県における竹林の分布とその地形条件

日本森林学会誌 (2022) 104 : 286-294

本論文は、長野県には一体どれほどの竹林があり、どのような場所に立地しているのかという研究になります。竹林を見つけることは難しいことではありません。大体が車道から見える農地や森林の端にあり、山奥には希で、色も他の植生と区別しやすいためです。上空から見ても林冠がポツポツとした特有のパターンを示し、容易に判別できます。そこで筆者は高解像度の航空写真を用いて、長野県全域の竹林分布を特定しました。南信の大規模なモウソウチク林、東信の中規模で点在するハチク林、北信の稀にしかない竹林等々。総計 10,523 ヶ所、1,449ha (図 1)。これは長野県全域の 0.11% の面積になります。今となってはどのような境地でこの作業を完遂したのかかかではありません。この唯一無二のデータを分析すると、竹林の分布は傾斜が緩やかな南向きの斜面に偏っていることが判明しました。日本のマダケ属 (モウソウチク、マダケ、ハチク等) からなる竹林では種子による更新の報告はないため、経験知らないし行政主導で人がそのような土地を選んで竹林を植えたかと考察できます。このデータは様々な知見の可能性をはらんでいます。竹林分布データは J-Stage Data にて公開しています。



(相原 隆貴 / 筑波大学大学院生命環境科学研究科)

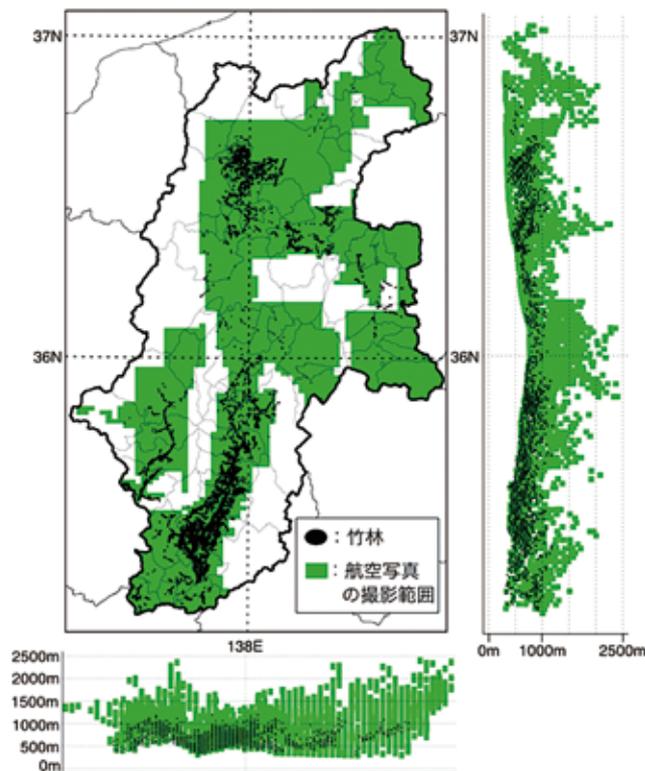


図 1. 長野県の竹林分布と竹林探索に用いた航空写真の範囲

筑波大学山岳科学センターとの連携・協力に関する協定を更新しました。

長野県環境保全研究所は、平成 30 年 (2018 年) 2 月 8 日に、筑波大学山岳科学センターと、山岳域における研究、人材育成、情報発信等において連携・協力していくために協定を締結しました。協定期間には、「山と人のシンポジウム」(H30 年 4 月) を共同開催したほか、研究施設の相互利用や人材育成、またカラマツ林でのリター・トラップ調査、外来魚類の遺伝構造解析など多くの共同研究を推進してきました。

今回、協定期間の 5 か年が経過したことから、これまでの実績等を点検評価し、引き続き連携協力するよう令和 5 年 (2023 年) 2 月 8 日付で協定を更新しました。今後も信州の自然環境を特徴づける山岳環境の持続可能な地域づくりに貢献できるよう、連携を活用した取り組みをともにすすめてまいります。

編集後記

●信州大学の牧田さんから、巻頭言として、身近でありながら見知っていることの非常にすくない、木の根っこからの“ちゃいろのこえ”をいただきました。●生物多様性条約第 15 回締約国会議 (COP15) では 2030 年までの国際目標が定められました。●長野県でも新たな生物多様性地域戦略がスタートします。●特集の霧ヶ峰の草原保全是、この新しい戦

略でも重要な課題です●令和 5 年度も自然ふれあい講座、山と自然サイエンスカフェなどのイベントにぜひご参加ください。●本誌の感想、ご意見につきまして、アンケートフォームをご用意しました。二次元コードからすすみご入力ください。

(編集担当: 坂爪・尾関・黒江・葉田野)

